県中いわて

令和２年12月１日／第252号

●発行／岩手県中学校長会　●代表／菊池　正樹（盛岡市立厨川中学校）●事務局／〒020-0885 盛岡市紺屋町2-9（盛岡市勤労福祉会館2F）／電話・FAX 019(622)0572　●ホームページ https://www.iwate-jh-kochokai.jp/
●印刷／杜陵高速印刷／電話019(651)2110

中体連だより

県中体連の活動

岩手県中学校体育連盟
会長　橋場　中士（下小路中）

令和２年度は、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえた対応が早急に求められたスタートとなりました。そのような中、５月19日に臨時評議員会を開催し、県中学校総合体育大会については、生命を守ることや拡大防止等の観点から中止としました。

その後、県内13地区中体連では、地区大会の開催を決定し、県内中学生アスリートの晴れ舞台が用意されました。大会は、すべての競技が地域の状況に応じた形で開催され、特に３年生にとっては、かけがえのない大会となりました。各地区中体連や校長会のご尽力に、改めて感謝と敬意を申し上げます。県中体連では、細やかながら、各優勝チーム等にクーラーボックスなどの記念品を送らせていただきました。

夏以降、可能な限り感染リスクの低減を図りながら、様々な教育活動が再開され始めたことを受け、本連盟においても、県駅伝大会やラグビー大会、県新人大会など、秋以降の大会を開催することとしました。これもひとえに、県内各自治体、教育委員会をはじめ、競技団体等のご理解とご協力があってのことと、感謝している次第です。

大会は、宿泊を伴わないことや出場数を縮小するなど、コロナ禍での対策を講じた上で実施しました。今暫くは、本連盟が策定したガイドライン等に則り、安全安心な運営を心がけていきます。

現在、すべての競技が無事大会を終え、冬季競技の一部も開催されています。

全国的には、本県のように開催に至っていない地域も多い中、過日日本中体連では、全中大会冬季競

県中駅伝（男子フィニッシュ）

県中駅伝（女子スタート）

県中ラグビー

技の開催を決定したところですし、来年度の通常開催に向けた検討や準備も始まっています。

本連盟では、今後も県中学校長会や各地区中体連との様々な情報共有や検討を進めるなどの連携を図りながら、引き続きたくましく人間性豊かな中学生の育成に取り組んでいきます。

中文連だより

コロナ禍での歩み

岩手県中学校文化連盟
会長　松葉　　覚（下橋中）

未だ新型コロナウイルス終息の兆しが見えない状況の中、今年度の岩手県中学校文化連盟の責務を果たすために、各地区中文連と連携を図りながら活動を推進しております。

本来であれば、８月20日～21日に第20回全国中学校総合文化祭福岡大会が、福岡県北九州市で開催される予定でした。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大等の影響により中止となりました。この大会の舞台発表の部には、宮古市立花輪中学校が本県代表として出演し、内川目さんさ踊り等の伝統芸能を発表する予定でした。また、展示発表の部には、絵画10点が出展される予定でした。どちらも本県中学生の文化芸術のレベルの高さを全国に示す良い機会であっただけに、中止になったことは残念でなりません。今後も機会をとらえて、本県だからこそできる文化活動を全国へ発信して参ります。

さて、今年度の第19回岩手県中学校総合文化祭は、11月20日（金）～23日（月）に岩手県民会館において、スローガン「歩み出そう　未来の岩手へ　描こう　希望の光！」のもと、展示発表部門のみ開催しました。各地区から2000点を超える優れた作品を展示し、来場者も1300人を超え、成功裏に終えることができました。ありがとうございました。

また、各地区においても、10月から11月にかけて総合文化祭や発表会が開催されました。コロナ禍でも、感染症対策を講じて開催していただきましたことに感謝申し上げます。

来たる令和３年８月、２度目の全国中学校総合文化祭岩手大会が盛岡市で開催されます。東日本大震災津波から10年。復興に向けて取り組んできた中学生の姿とこれまで御支援をいただいた全国の皆様への感謝を伝えたいと考えております。

結びに、本連盟は、県中学校長会や各地区中文連と連携を図りながら、本県の中学生が文化活動でも益々活躍するよう力を尽くして参ります。これからも御協力と御支援をよろしくお願い致します。

県中総文祭

スローガン
大船渡市立綾里中学校
２年　佐藤　　凛さん

ポスター
盛岡市立下橋中学校
２年　深澤　蒼太さん

本県生徒作品

県外招待作品

私の学校経営

話し続けてきたこと

盛岡地区　田口　秀樹（乙部中）

これまで３校で校長をさせていただき、先輩校長が作ってこられた学校基盤に胡坐をかいて過ごした時間を猛省する機会を与えていただいた。

これまで、話してきたことを連ね、経営の紹介に替えさせていただきたい。

１【職員へ】（職員会議の資料）
- 言えない目標は、目標にならない
- 今年度の職員定数等説明（加配って？）
- 「新？」昇給制度について
- 名刺の渡し方・お茶の出し方・受話器の置き方
- コートはどこで脱ぐのか？
- 生徒一人１時間あたり授業料は？教師時給は？
- 「校長」・「学校長」どっち？
- いつまで「新」学習指導要領？

２【生徒へ】全校朝会（月１回スライドで耳と目に）
- 学校経営方針とまなびフェスト・部活基本方針
- いじめは、何種類？
- 自分は自分の友達になれる？
- 失敗には、「過失」と「故意」がある
- 「伝統」とは、真似て良さを受け継いだ「習慣」
- 年度修了まであと、43,628,800秒
- 学習は、「わかる」⇒「覚える」⇒「使える」
- ５分のムダの蓄積で９年間だと
  １年分の授業時間が消える

３【保護者へ】諸懇談会等のあいさつ
- 学区の特徴：学習塾よりピアノ教室に通う
- 地域コミュニティが数百年壊れていないから
  郷土芸能伝承する発表会が40周年続いた
- 子と同じ土俵ではなく、一段高い所から
- 情報は、２つの目と２つの耳で
- 中学生の心や体がどうなるか勉強して、
  親としての対応の力をつけてほしい。
- 「親」という漢字は、「子が使う木を植え、
  立つ（成長する）のを見届ける見通し力」

～先輩の　受け売り多し　多愚痴かな～

私の学校経営

「巨（おお）いなるもの」
（校歌歌詞の一節より）

胆江地区　大平　　優（江刺南中）

教室を廻り、生徒一人ひとりの顔を見ながら私の１日が始まります。校長昇任以来前任校の時から続けてきたことで、小規模校ならではのルーティンです。

本校経営の方針は「４つの信頼の構築」です。「生徒間の信頼」「教師間の信頼」「生徒と教師の信頼」「学校と保護者・地域との信頼」を基盤に学校経営を進めています。経営にあたって私が肝に銘じていることは「方法は違っても目指すところをそろえていくことが何より大切である」ということです。そのために「校長の経営に対する考え方について時宜をとらえて職員に示す」こととし、具体的には「職員会議には、まなびフェストに基づいた月の重点を示す」「職員通信『おおいなるもの』を随時発行」「復興教育取組の一環として、『あのときを忘れない』を毎月11日に発行　※生徒、保護者、職員に配布」を実践してきました。

今年度は「学びのつながりを意識して授業づくりに取組む　※奥州市指定研究２年目の取組と連動させながらの取組（グループ研究会＝学年単位の研究会、ステップアップシート等）」「校務分掌の複数分担制」を改善点として力を入れているところです。また「働き方改革」の一環として、職員会議・校内研のある週の平日ノー部活デイをその日に設定し生徒は活動なしで下校するようにしました。「職員研修日」として位置づけ資質向上に資することができればとの意図があります。

昨年度末以来の新型コロナウイルス感染症により、様々な制限が課せられている学校生活ですが、生徒は明るく素直で、この状況でも学校生活を楽しんでいます。「やれる範囲でできることに取組んでいく」ことにより、生徒職員「それぞれの持つ力を伸ばすこと」を求めながら、教師生活38年の集大成として全力投球していくことが信頼に応えることであると肝に銘じ経営を続けていきたいと思います。

新任校長の抱負

「行山流舞川鹿子躍」の里に着任して

一関地区　野原　勝博（舞川中）

本校は、創立73年目。自慢は何といっても築68年の木造校舎です。今も毎日、生徒・教職員が心を込め床を磨き、生徒の純粋な心のように光り輝いています。

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止により、多くの行事が制約を受けました。しかし、このような中でも、生徒を見ていて感じることは、学び・吸収を繰り返し「逞しく成長している」ということです。日常では「自らの健康を守る習慣・行動」がしっかりと実践されています。行事においても状況を理解し、創意工夫の中から実現に向け着実に前進するという逞しい姿が見られました。特に、５月に行われた運動会では縮小しての開催でしたが、知恵を出し合いリーダーとしての成長はもちろん、全校の一体感のある行事を創り上げてくれました。この姿は保護者の不安を喜びへと変えてくれました。校長としても嬉しい場面の１つでした。

本校教育活動の柱の１つに地域体験学習があります。地域の人的・物的資源を活用し、体験を通して学び考えたことを発信するまでの過程を通して、自分自身が地域の大事な一員であるという意識を育てることに努めています。また、県無形民俗文化財にも指定されている「行山流舞川鹿子躍」の伝承活動にも取り組み、地域を担う一人としての使命感も感じられるようになってきました。

ある朝、地域の方が生徒一人一人について「○○さんの孫」「○区の○○さんの２番目」などと話しているのを聞き、「小さい時から地域が温かく子どもたちを見守っている」ことを実感しました。

今年度は、私を含め職員の半数以上が新しく着任しました。今までの財産を大切にしながらも、これからの方向性をしっかりと共有し、地域に温かく見守られ大切に育てられてきた子どもたちが、地域を担う逞しい人材に育つように、強い決意のもと学校運営に当たっていきたいと思います。

新任校長の抱負

野田村の太陽とともに

久慈地区　勝部　孝行（野田中）

野田中学校は、全校生徒96名の村唯一の中学校です。「主体的に学び、豊かな心のつながりを育み、地域の未来を担うたくましい生徒の育成」を学校教育目標として定め、日々の活動に取り組んでいます。

本校の大きな特色は、太陽プロジェクトと呼ばれる復興教育です。「野田村の太陽になろう」を合言葉に、生徒が自分たちの活動を通して野田村の人たちに元気と勇気を与えようと取り組んでいます。学校行事や地域行事では、創作太鼓や野田中ソーランを披露したり、ボランティアとして一緒に活動したりしながら、地域と一体となった教育活動を進めています。また、総合的な学習の時間では、学年毎にテーマを定め、ふるさと野田村を愛し、その復興・発展を支える人材の育成に取り組んでいます。

今年度は、新型コロナウイルスの影響で、４月の赴任当初から校長としての様々な決断を迫られました。日常の学習や生活をどう進めていくか、修学旅行・宿泊研修・体育祭・職場体験などの行事をどうするかなど、悩むこともたくさんありました。そのような中で、地区中学校長会長が中心となり、地区内の各校の現状と悩みを集計し、アドバイスをしてくれました。どの学校も同じような悩みを抱えていることを知りホッとするとともに、困った時は先輩方が協力してくれるという心強さを感じました。結果、１学期の学校行事・地域行事はほとんど延期または中止となり、エネルギーを発散できないもどかしさからストレスを感じる生徒も出てきました。

そして、２学期。延期していた職場体験や体育祭、世代間交流に続いて、文化祭も予定通り開催することができました。そこには、多くの保護者や地域の方々に見守られながら、野田村の太陽として輝く生徒の姿がありました。今後も家庭や地域の願いを汲みながら、教職員と力を合わせて、生徒一人ひとりの力を伸ばしていける学校を創っていきたいと考えています。

「令和元年度における生徒指導の諸問題に係る調査」の概要

生徒指導部

会員の皆様のご協力と生徒指導部地区担当者の皆様、幹事の方々のご尽力により、令和２年度の本調査（調査対象：令和元年度）の『結果と傾向』をまとめることができました。心から感謝申し上げます。

以下、調査結果の概要を紹介いたします。

１　各学校の生徒指導の状況

「問題行動があった」と回答した学校が48％（73校）、その中で「３件以上あった」と回答した学校が21％（32校）で平成25年度以降最も高い数値となった。令和２年度の予想は、５割弱の学校で問題行動の心配があると回答している。各学校では、未然防止に向けた対策等生徒指導の充実を図る必要がある。

２　対教師・対生徒への問題行動

「対教師への問題行動」の合計人数は47人であり平成30年度よりも増加しているものの、近年と比較してみて大きく増加している項目はなく、男女比も例年と変化はない。

「対生徒への問題行動」の暴力行為は251人で、平成27年度以降増加し続けている。

「暴力を振るう」の人数と件数は、近年で最も高い数値であるが、特定の学校が全体の1/3以上を占めている状況である。

３　怠学等の問題行動

「怠学」「対物」「校則違反」「一般的非行」の合計人数は237人で、近年と比べ大きな変化はなく、平成30年度と同程度の数となっている。

しかし、いじめ、インターネットやＬＩＮＥ等の問題行動や不登校・不適応の実態を踏まえながら総合的に判断し、生徒指導の充実が一層求められる。

４　いじめ問題の状況

いじめの認知数の総数は前年より減少しており、小・大規模校では減少傾向にあった。しかし、中規模校では増加傾向が見られた。

学年別の認知件数については、過去３年間同様の傾向が見られ、１年生でのいじめの認知件数が多かった。

いじめの解決率は90％であったが、未解決のほとんどが３年生であり、解決が図られないまま卒業している状況にある。

いじめの様態は、件数が減少（前年比－175件）している。その中で「ひやかしやからかい」が54％を占めており、「暴言による脅しや罵倒」「仲間はずしや無視」は若干増加が見られた。

５　不登校の状況

理由の上位は、「神経症的拒否と思われるもの」が最も多く、平成30年度と同じ傾向である。

学年別の状況は、平成27年度以降、１年生での不登校生徒数が年々増加している。令和元年度は平成27年度に比べ61人増加し、約1.3倍となっている。

出現率は、大規模校で前年度より0.27ポイント減少しているものの、小規模校でと中規模校で増加傾向は継続している。中・大規模校の出現率は３ポイント以上となっており警戒すべきレベルである。

６　情報機器の利用

携帯電話・スマホの利用によるトラブルの内容では、「ＬＩＮＥ等に関わるトラブル」が50.0％（平成30年度48.4％）で最も高い。しかし、増加率を見ると「オンラインゲーム関連の料金トラブル」が6.3ポイントの増加、「FacebookやTwitter等に関わるトラブル」「不登校」が4.4ポイント増加しており今後注視していく必要がある。

国の情報によれば持ち込み可能の方向の動きもあり今後情報を共有し校長会としての方向性を検討していくとともに市町村間でも連携をしていく必要がある。

７　児童虐待・クレーマー等

今年度も過去３年間と概ね同様の結果となった。

平成30年度は「モンスターペアレント、クレーマー等で困っている（いた）」が12.1％と微増の傾向を示したが、令和元年度は10％と減少した。

しかし、児童虐待「身体的虐待」で18％（5.3ポイント増）、同「心理的虐待」が12％（6.9ポイント増）となった。

各地区校長会活動 NOW

気仙地区校長会

気仙地区の子ども達の健やかな成長を願って

石橋　和彦（大船渡中）

1　はじめに

気仙地区校長会中学校部会は、統廃合により３校減少し、大船渡市５校、陸前高田市２校、住田町２校の合計９校により構成されている。今年度、会員の半数が異動となった他、新型コロナウイルス対応や諸課題への対応を連携し、地域の教育活動を推進するために活動している。

2　本年度の活動方針

(1)　会員相互の連携と交流を密にし、本会活動の活性化に努める。

(2)　高い理想の実現に向け、保護者・地域住民と一体となった特色ある学校づくりに努める。

(3)　研究・研修の充実を図りながら、校長としての見識・力量を高める事に努める。

(4)　関係機関・団体との連携を図り、気仙地区教育の改善・充実に努める。

3　本年度の主な活動内容

(1)　学校情報交換研修会

年２回、学校間のつながり強化を目的に情報交換や協議を行っている。

(2)　中高校長意見交換会

年２回、中学校・高等学校長で情報交換や諸課題に対して協議、親睦会を行っている。

(3)　経営に関する研究・研修

コロナ感染予防対策の現状把握し、校長としての在り方を協議している。

4　おわりに

新学習指導要領の完全実施や働き方改革の推進等、課題が山積するなか、さらに感染防止対応や行事等の変更を余儀なくされた今年度ではあるが、会員相互が連携を図りながら、各校の状況に応じた学校経営を推進し、気仙地区の子ども達の成長を願い活動に取り組んでいる。

二戸地区校長会

地区校長会の絆を大切にしながら

前田　　稔（福岡中）

1　はじめに

二戸地区校長会中学校部会は、二戸市３校、一戸町２校、軽米町１校、九戸村１校の合計７校で構成されている。小規模ならではのフットワークの軽さを生かし、会員相互の情報交換を密に取りながら、当面する教育課題や地域の課題の克服に努め、学校経営を推進している。

2　本年度の主な活動方針

(1)　地区の連携を強め、当面する教育課題に協働して取り組む。

(2)　校長としての識見・力量を高めるための研修を積極的に行い、人材育成に繋げる。

3　活動の主な内容

(1)　感染拡大防止対策の中での教育活動について部活動を含めた日常の教育活動や体育祭、文化祭等の行事を行うにあたり、各校がどのように対策を取っているのかを情報提供し合い、自校の対策に資するようにした。また地区中総体や新人大会について数度にわたり評議員会で議論し、生徒や保護者、部活動顧問、関係機関に理解してもらえるような方針立てをして開催した。

(2)　地区の研究推進にかかわって

部会開催が難しいためメール等を活用しながら、情報モラル教育の推進について意見交流し、各校の課題を明らかにして、次年度の活動に繋げることとした。

4　おわりに

年度当初から多くの教育活動が制限されたが、各校が、「できない」のではなく「どのようにすればできるのか」という視点でまとまることができた。角度を変えてみれば、行事の在り方に踏み入ることができたことは前進であるとも感じる。次年度も７名の会員が一枚岩となって教育課題に向き合い、校長としての力量を高めていきたい。